

都市防災論:平成24年度期末試験

学籍番号:

名前:

- (1) 首都圏直下は、複数のプレートが複雑に重なりあり、これまで多くの地震が発生している。これまで、M8クラスの大地震が200～220年間隔にて発生しており、この発生間隔のうち、前半を()、後半を()と呼ぶ。このクラスの大地震は、直近では、() (地震名と発生年を記入せよ) であり、その一つ前には、() (地震名と発生年を記入せよ) が発生し、多くの被害が生じている。
- (2) 津波に関する次の3つを簡潔に説明せよ:
- ・遡上高さ:
 - ・津波高さ:
 - ・浸水深:
- (3) 地方自治体と市町村の地震防災では、シナリオ地震(想定地震)を設定して、このときの地震動予測と被害想定が重要である。地震被害として、()、()、()、土木構造物の4項目に対して実施することが多い。例えば、このうち建物被害評価は、()、()、急斜面崩壊、火災、などによる被害要因を分類して予測する。
- (4) 津波と波浪を比較して、類似点と相違点がわかるように説明せよ。特に、‘波長’、‘浸水または遡上’のキーワードを入れること。
- ・津波:
 - ・波浪:
- (5) 首都直下地震に対する、シナリオ地震(想定地震)を2つあげ、そのときの避難者の発生人数(万人単位)を答えよ。
- 1:
- 2:
- (6) (耐震設計に関する説明の記述)。構造物の(a)は、構造寸法、断面諸元、使用材料に基づいて算定され、(b)対象構造物の建設サイトに対して設定される。地震発生を人為的に防ぐことはできないが、(c)は、免震、制震、高耐震化により対処することが可能である(aとcは、同一語句)。

